

産業の歴史と深く結びついた「一宮」の魅力

濃尾平野のほぼ中央に位置し、豊かな水と肥沃な土壌に恵まれた一宮市。その名は尾張国の一の宮、真清田(ますみだ)神社があったことから始まったといわれています。古くから織物の街として知られ、モーニング発祥の地、そして日本三大七夕まつりの一つ「おりもの感謝祭 一宮七夕まつり」でも有名。



真清田(ますみだ)神社

糸から製品までの工程を地域内で世界に誇る毛織物の産地、尾州

◆尾州産地とは◆

尾州というのは尾張国の異称。愛知県北西部に位置する尾張西部地域を中心に、豊かな木曾川の恵みのもと、尾州産地として今も世界に誇る高級毛織物の生産を続けています。時代のニーズに呼応しながら尾州産地のテキスタイルは生まれています。

◆尾州産地の歴史◆

奈良時代から麻、絹織物の産地として栄えた尾州。江戸時代に入ると綿花の栽培が始まるとともに綿織物が生産され、江戸後期には絹木綿の産地へと発展。尾州産地の技術と知識は明治に入ると毛織物に受け継がれ、昭和初期には世界有数の毛織物産地に成長しました。現在も尾州産地の製品が再び注目を集めており「尾」BISHUをシンボルに、ブランド力を高めながら新たな価値を創造していく取り組みが進められています。



「海賊とよばれた男」のロケ地 葛利毛織工業株式会社で見たものづくりの熱意

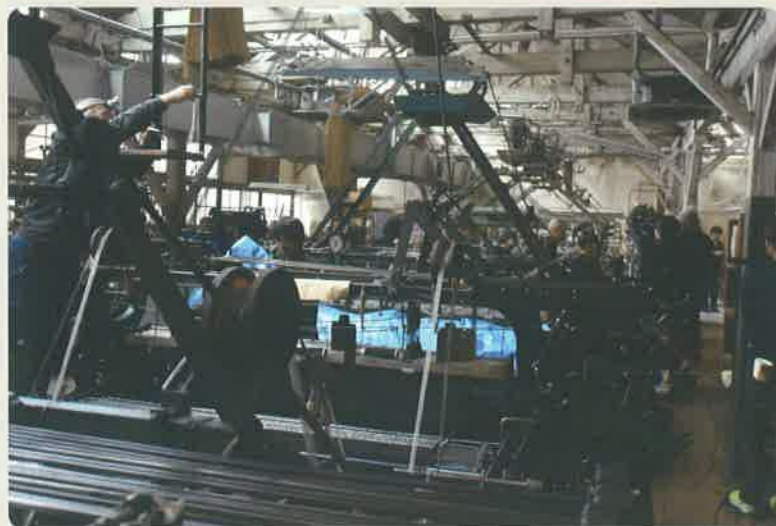
手織りの織機を動力化した「ジョンヘル式織機」を今も大切に使い続け、培われた技術は「もはや欧州では生産できない生地」と高い評価を受ける葛利毛織工業株式会社。高速織機が一般的となった今も、変わらぬ製法で天然材料の紳士服地を設計・生産・販売しています。

産業機械の近代化や競争環境の変化により売上は減少。一時は廃業も意識したといえます。しかし海外に目を向けたことで、世界的有名ブランドへの採用・納品が決まり、繊維業界からも大きな注目を集めることとなりました。現在ではものづくりにかける情熱に共感した未来の担い手も集まり、自社の作る製品の価値を改めて感じた同社。尾州産地全体との共栄も考えながら、今後100年続くものづくりを目指しています。



昭和6年導入のジョンヘル織機

若き日の岡岡が機械油を売りに行く場面を撮影。



葛利(くさり)毛織工業株式会社

一宮市木曾川町玉ノ井宮前1番地

葛利毛織工業は、1912年に創業した老舗の工場。(愛知ブランド認定企業)

※見学を希望される方は、直接、葛利毛織工業(株)へ連絡してください。



脈々と継がれる伝統の工程を間近に……



①ワインダー (糸繰り)



⑤綜恍通し



②整経準備



⑥管巻き



③整経



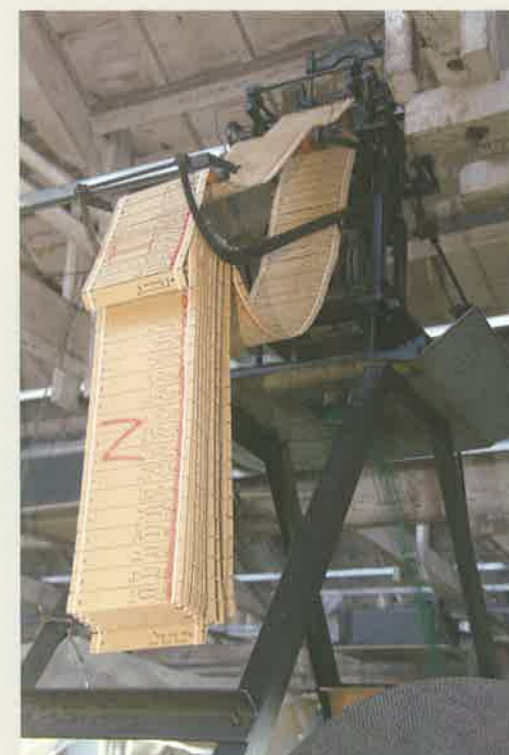
⑦シャトル



④整経巻き取り



⑧製織



⑨耳ネーム



一宮のおすすめスポット&グルメ



138タワーパーク

大小様々な多彩な遊具で遊べて週末は家族連れで賑わいます。一宮の名前にちなんだ138mのツインアーチで構成されるタワーは街のシンボルになっています。



どてカラ丼

どて煮とからあげという夢のコラボレーションに一宮産のたまごが加わった、濃厚な味噌味の丼ぶり。



一宮市



名古屋

愛知県